

令和8年2月12日

答 申 書

垂水市長 尾脇 雅弥 様

垂水市立学校の在り方検討委員会
委員長 寺床 勝也

垂水市立学校の在り方検討委員会は、垂水市教育委員会からの諮問を受け、本市の次代を担う子供によりよい教育環境の下、充実した学校教育の実現に資するよう、保護者、児童の意見を尊重し議論を重ねた。ここに、本委員会の検討結果をまとめ答申とする。

1 基本方針

「将来の担い手となる子供たちにとって、よりよい学びの場となるよう検討を進める。検討に当たっては、当事者である子供と保護者の意見を大切にする。」ことを基本とし、垂水市教育振興基本計画で基本目標に掲げている、「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり」を目指すこととする。

2 今後の方向性

(1) 学校の適正規模

子供たちが多様な考えに触れ、切磋琢磨することのできる教育環境の構築を最優先とし、今後の児童生徒数の推移を考慮し、可能な限りの集団規模を確保できるよう学校の統合が必要と判断した。

(2) 統合の形態

小学校を1校に統合する。

(3) 統合後の学校の位置

本市の地理的条件や児童生徒の多くが生活する、中央地区が適当と判断した。具体的な場所の選定については、基本構想等を策定し検討すること。

(4) 統合の時期

速やかに学校施設整備を完了し開校すること。

3 要望事項

- (1) 統合準備委員会等を設置し、統合する上で必要な検討事項については、保護者、地域等の意見を伺い、統合方針の決定に努めていただきたい。
- (2) 学校の統合にあたり、学校施設の老朽化対策やバリアフリー化等、安全性・機能性を有し、児童生徒が安心して通える施設の整備を行っていただきたい。
- (3) 放課後児童クラブの設置等の教育環境の整備をしっかりと行っていただきたい。
- (4) 学校の統合にあたり、児童生徒が環境の変化に対応できる体制の整備を図っていただきたい。
- (5) 児童の通学距離・時間がこれまでよりも長くなることから、低学年に配慮した通学手段を確保していただきたい。
- (6) 統合までの間、各学校が、授業や学校行事等を通じて積極的に児童生徒の交流の場を設けるとともに、PTA行事等を通じた保護者同士等についても交流を図り、統合後の学校生活等に円滑に対応できるよう「心の統合」を進めていただきたい。
- (7) 統合後も地域行事等が継承され、地域ぐるみによる子供の健全育成が図られるよう、支援をしていただきたい。
- (8) 統合後の小学校跡地の有効的な利活用策については、各学校の施設の状況や地域の特性があることから、学校全体の計画に加え、各学校の個別計画が必要である。全庁的な検討委員会を設置し、地域と共に総合的に検討する場を設け、伴走型の支援をしていただきたい。

4 まとめ

この「最終まとめ」を受けて、垂水市の学校が将来の担い手となる子供たちにとって、より良い学びの場となるよう、教育委員会において、施策の確実な実施と学校への支援を行っていただき、「夢や希望を実現し ともに未来を創る垂水の人づくり」の実現に向けた取組が加速していくことを期待する。